



代表質問

令和6年2月21日の各党(会)派代表による代表質問では、次の議員が質問を行いました。各議員の質問の中からピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!

下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

2月21日(水) 自由民主党 (135分)



井下 泰伸 自由民主党
(伊勢崎市)



▶首都圏が被災した際の群馬県による対応について

Q 能登半島地震を踏まえ、首都圏が被災した際には、本県としても備えが必要と考えるが、知事の所見について伺いたい。

A 知事

知事として近未来構想の一つに「レジリエンスの拠点」を掲げ、首都直下地震等の大規模災害時に群馬県がさまざまなバックアップができるよう、昨年度から構想に基づく取組を強力に推進してきた。群馬県から国や知事会を動かし、民間企業との連携も進め、国を挙げて国難と呼ぶべき事態を乗り切れるよう、さまざまな取組を進めていきたい。

▶旧境町トレーニングセンターについて

Q 旧境町トレーニングセンターの現状について伺いたい。



A 農政部長

高崎競馬廃止後、調教師らが競走馬の育成事業を行うための法人を設立し、平成17年から境町のトレーニングセンターを利用している。この場所は約6割を民有地が占め、県では全ての土地を借り上げ、この法人に跡地の利用が決まるまでの間を条件に、土地・建物の一部を暫定的に貸し付けている。県としては、跡地利用計画や法人の移転が円滑に進むよう伊勢崎市や関係者と連携し、しっかりと調整を進めてまいりたい。



金井 康夫 自由民主党
(沼田市)



▶(新)沼田高校における特色ある教育活動と施設整備について

Q 新高校の特色ある教育活動とそれを実現するための施設整備の概要について伺いたい。



A 教育長

特色ある教育活動として、進学重視型単位制による多様な選択科目の設置、グローバルな視点の育成などを展開する。こうした教育活動を施設面からも支えるため、「学校全体を探究スペースに」をコンセプトとし、校舎内無線LANの設置、図書館と協働的・探究的学習スペースを融合した「メディアラーニングセンター」を配置し、学校施設の全てについて、主体的・対話的で深い学びを行える場としたいと考えている。

リベラル群馬 (43分)



本郷 高明 リベラル群馬
(前橋市)



▶ジェンダーギャップの解消について

Q 女性にとって魅力ある地域となるためにはジェンダーギャップの解消が必要であると考え、県の取組について伺いたい。

A 生活こども部長

ジェンダーギャップ解消のためには、性別役割分担意識や慣行をなくし、女性が意欲をもってさまざまなチャレンジができ、意思決定の場面に関わることが重要である。県では、「第5次群馬県男女共同参画基本計画」に基づき、全庁を挙げ、また教育や雇用、農業、防災などさまざまな分野で、企業や関係団体と連携しながら取組を進めている。県民全てが活躍できる群馬県となるよう、引き続き取り組んでまいりたい。

令明 (43分)



あべ ともよ 令明
(太田市)



▶被災者支援における避難所等での生活環境の向上について

Q 避難所等における生活環境の向上に向けたこれまでの取組はどうか。また今後どのように取り組んでいくのか。

A 危機管理課長

県では国に先駆けて令和3年3月に「群馬県避難ビジョン」を策定し、避難所等の生活環境の向上に向けて検討を進めてきた。安心して睡眠がとれる環境や栄養バランスのとれた温かい食事、安心して使える清潔なトイレの確保など、市町村と一体で取り組んできた。今後は能登半島地震で生じた課題を洗い出し、本県に置き換えた対応を検討予定であり、引き続き市町村と連携して避難環境の向上に取り組んでいきたい。

公明党 (39分)



薬丸 潔 公明党
(太田市)



▶災害対応における地震被害状況の県民への周知について

Q 市町村と連携しながら、県民に直接周知する機会を設けるべきと考えるがどうか。

A 危機管理課長

地震被害想定調査の結果を市町村とも連携しながら広く県民に周知することは、県民一人ひとりが改めて防災について考えるきっかけになると考える。防災に関する県民向けの普及・啓発については、これまで県民向け講習会として実施してきた「出前なんでも講座」のメニューの拡充を行ったうえで、市町村とも連携しながら、さらなる周知を図ってまいりたい。

活動紹介 特別委員会

約1年かけて検討・議論を重ねてきた4つの特別委員会から3月13日、知事あてに提言書を提出しました。

■ 危機管理・エネルギーに関する特別委員会

「危機管理・エネルギーに関する提言」として、国民保護に関すること、災害レジリエンスに関すること、食料安全保障に関すること、脱炭素化・グリーンイノベーションに関すること、再生可能エネルギー等の導入促進・適正な管理に関することなど、危機管理対策及びエネルギー施策の推進に当たって取り組むべき23項目について提言しました。

■ 少子化対策・Well-beingに関する特別委員会

「少子化対策・Well-beingに関する提言」として、少子化対策・子育て支援（労働政策、働き方改革含む）に関すること、健康寿命延伸に関すること、直面する教育課題に関すること（インクルーシブ教育、部活動の地域移行及びコミュニティ・スクール導入）、県民幸福度に関すること、多文化共生・多様性社会に関することなど、少子化対策や子育て施策、県民の幸福度の向上に当たって取り組むべき39項目について提言しました。

■ 交通・次世代産業振興に関する提言特別委員会

「交通・次世代産業振興に関する提言」として、公共交通に関すること、群馬県版MaaSに関すること、物流の効率化に関すること、DX推進・デジタルイノベーション加速化に関すること、次世代モビリティ産業に関することなど、群馬県の交通及び次世代産業振興施策を推進していくに当たって取り組むべき25項目について提言しました。

■ リトリート・温泉文化に関する特別委員会

「リトリート・温泉文化に関する提言」として、リトリートの推進に関すること、県立赤城公園活性化整備に関すること、登山道・山岳観光に関すること、温泉文化の推進に関すること、移住促進・ワーケーションに関すること、県産農畜産物のブランド化に関すること、観光・リトリートと連携した農業振興に関することなど、群馬県におけるリトリート・温泉文化の推進に当たって取り組むべき37項目について提言しました。



群馬交響楽団 フルオーケストラ議場演奏

4年ぶり



第1回定例会の恒例となっている、県議会の本会議場をステージにした群馬交響楽団の「議場演奏」が、開会日の2月15日に行われました。

令和3年から5年までは、新型コロナウイルスの影響のため規模を縮小しての演奏でしたが、今回4年ぶりに50人を超えるフルオーケストラでの演奏となりました。今年はブラームスの「ハンガリー舞曲第5番」やドボルザーク「交響曲第9番『新世界より』第4楽章」など4曲が演奏され、議員のほか、傍聴に訪れた約150人の皆さんも聴き入りました。

「議場演奏」は、昭和32年3月定例会において初めて演奏されて以来、毎年実施しています。